

(事後評価)

一般国道357号 湾岸千葉地区改良

令和6年12月23日
国土交通省 関東地方整備局

目 次

1. 事業の目的と概要		1
2. 事業の経緯と周辺状況		2
3. 事業目的の達成状況		3
4. 今後の事業へ活かすレッスン		9
5. まとめ		11

1. 事業の目的と概要

(1) 事業の目的と計画の概要

- ・国道357号は千葉県湾岸地域の幹線道路であり、千葉市の中心市街地を通過。
- ・本事業区間の周辺には、業務施設や商業施設、イベント施設等が集積する「幕張新都心」や「蘇我副都心」が立地。

目的

- 交通渋滞緩和 ○交通安全の確保
- 国道357号周辺における交通円滑化

計画の概要

事業区間：自)千葉県千葉市中央区間屋町
ちばけん ちばし ちゅうおうく とんやちよう
至)千葉県千葉市美浜区真砂
ちばけん ちばし みはくまさご

計画延長・幅員：延長5.6km・幅員50m

車線数：6車線

計画交通量：47,100～75,700台/日

事業期間：平成15年度～令和元年度

全体事業費：約318億円

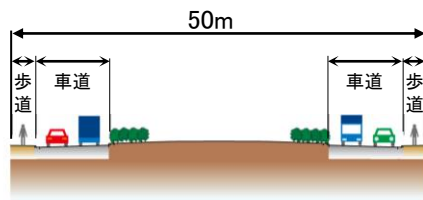


位置図

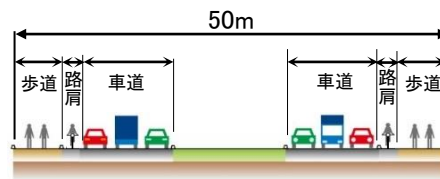


標準横断面図

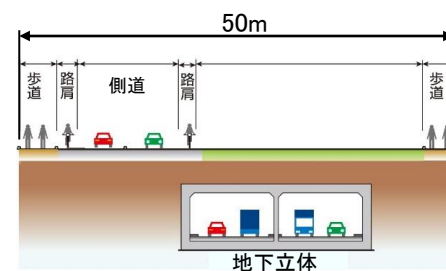
【整備前】



【整備後(一般部)】



【整備後(地下立体部)】



2. 事業の経緯と周辺状況

(1) 事業の経緯

- 昭和44年度 都市計画決定
- 平成15年度 事業化
- 平成17年度 工事着手
- 平成27年 5月 一般部(稲毛浅間神社前～運輸支局入口) 本線6車線開通
- 9月 一般部(運輸支局入口～登戸3丁目) 本線6車線開通
- 12月 地下立体部(登戸3丁目～ポートアリーナ前) 本線4車線、側道4車線開通
- 12月 一般部(千葉西警察署入口～稲毛浅間神社前) 本線5車線開通(山側3車線開通)
- 平成28年10月 一般部(千葉西警察署入口～稲毛浅間神社前) 本線6車線開通(海側3車線開通)
- 平成30年 4月 地下立体部側道の暫定運用を実施
- ～令和元年度 一般部歩道整備および地下立体部側道の舗装・歩道整備を実施



3. 事業目的の達成状況

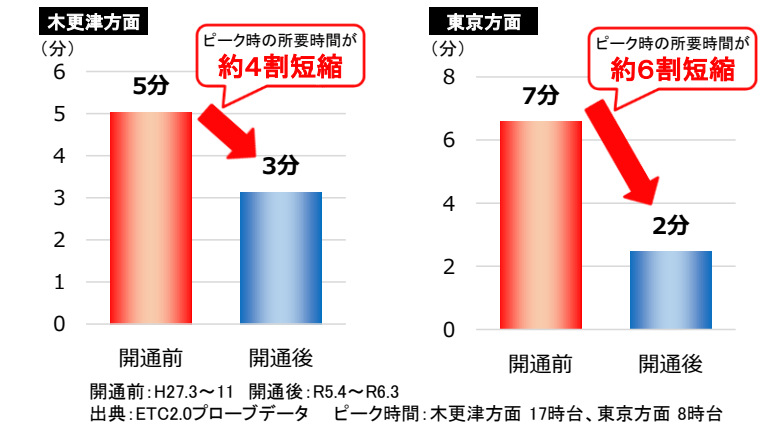
(1) - 1 交通渋滞の緩和

- ・地下立体部を中心に旅行速度が向上し、事業区間全体でのピーク時の平均旅行速度が約8km/h上昇。
- ・地下立体部でのピーク時の所要時間は木更津方面で約4割、東京方面で約6割短縮。
- ・登戸交差点では渋滞長が大きく減少し、渋滞が緩和。

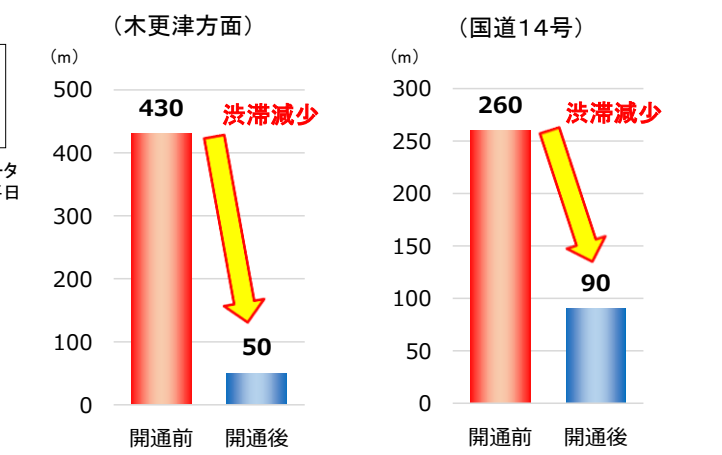
開通前後の時間帯別旅行速度の変化



所要時間の変化(地下立体部)



交差点の渋滞長(登戸交差点)

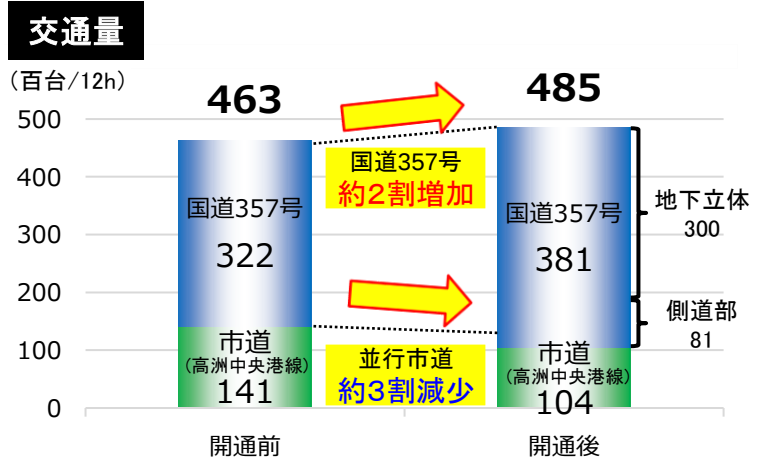


3. 事業目的の達成状況

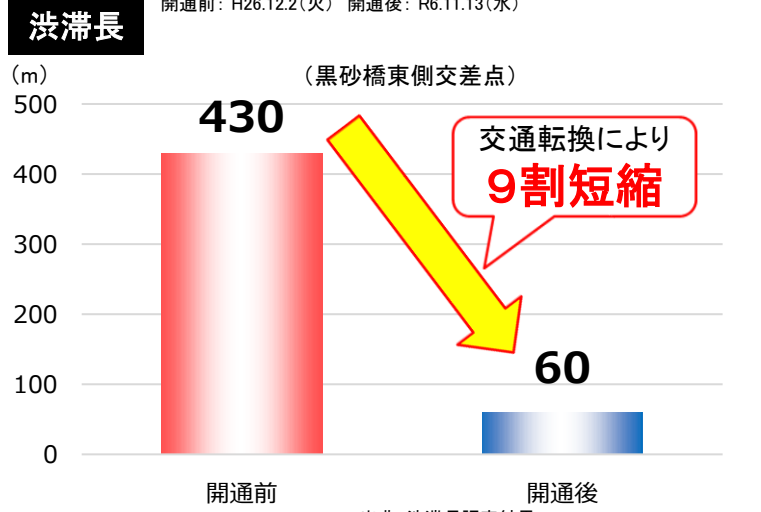
(1)ー2 国道357号周辺における交通円滑化

- ・並行する市道(高洲中央港線)から国道357号へ交通が転換。
- ・黒砂橋東側交差点では交通転換により渋滞が緩和し、バスの定時性が向上。

国道357号への交通転換



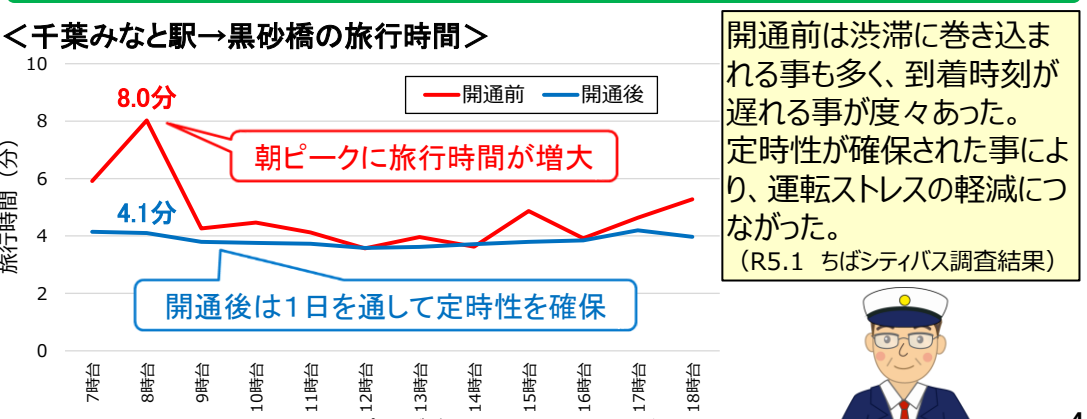
出典: 交通量調査結果
開通前: H26.12.2(火) 開通後: R6.11.13(水)



出典: 渋滞長調査結果
開通前: H26.12.2(火) 開通後: R6.11.13(水)



湾岸千葉地区改良並行道路の旅行時間



開通前は渋滞に巻き込まれる事も多く、到着時刻が遅れる事が度々あった。定時性が確保された事により、運転ストレスの軽減につながった。
(R5.1 ちばシティバス調査結果)

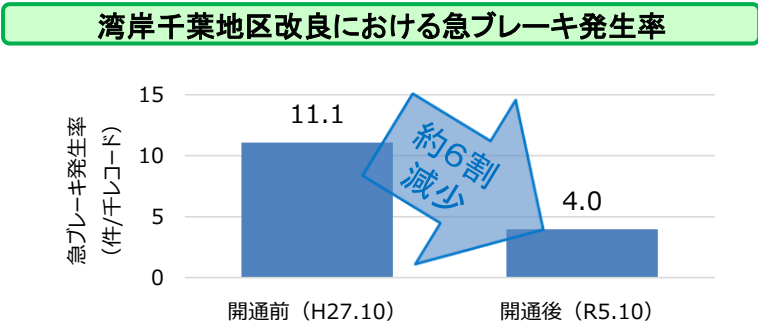
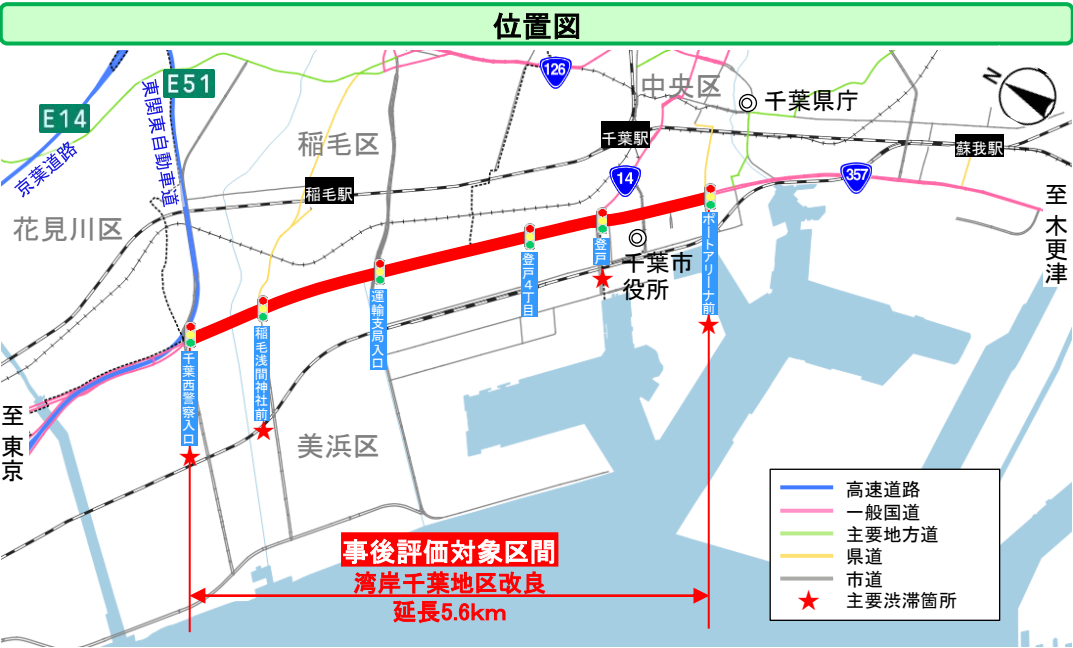


出典: ETC2.0プローブデータ(開通前: H27.4、開通後: R6.4)

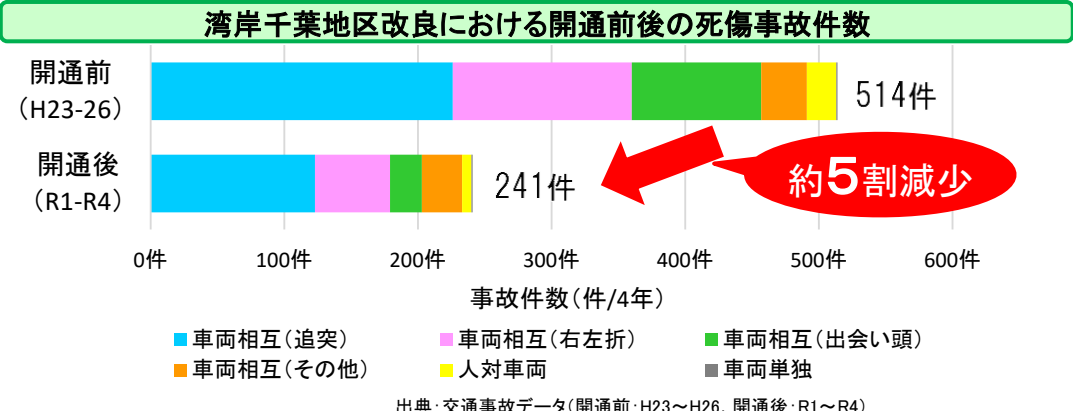
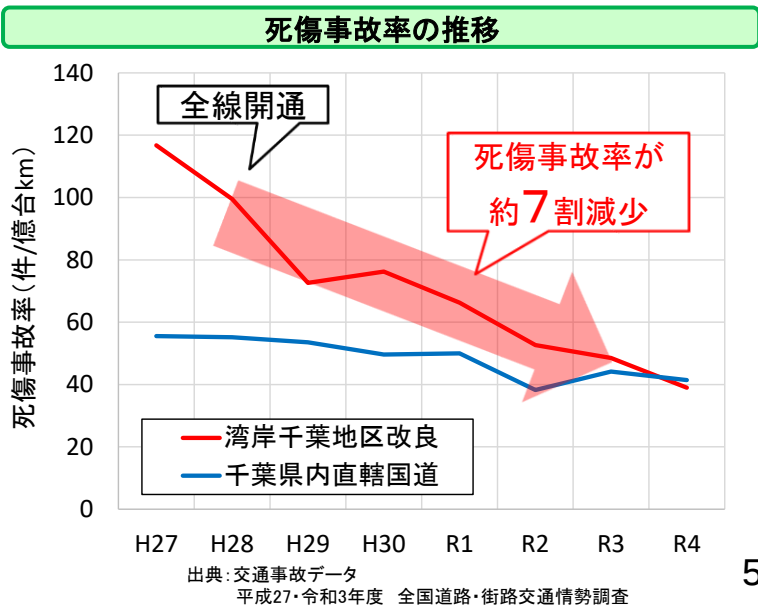
3. 事業目的の達成状況

(1)ー3 交通安全の確保

- ・湾岸千葉地区改良事業区間の死傷事故件数が約5割減少し、特に車両相互(出会い頭)が激減。
- ・同区間における急ブレーキ発生率も約6割減少。
- ・死傷事故率は千葉県内の直轄国道の平均と比べて減少が著しく、全線開通前から約7割減少。



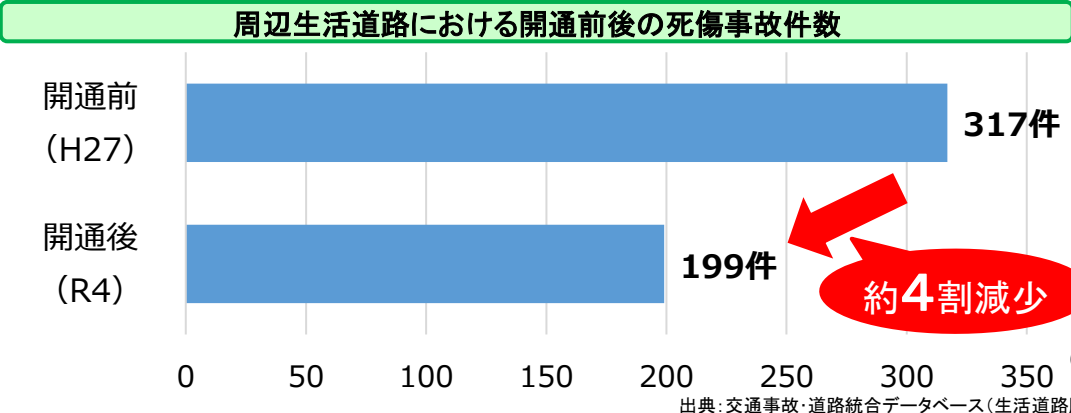
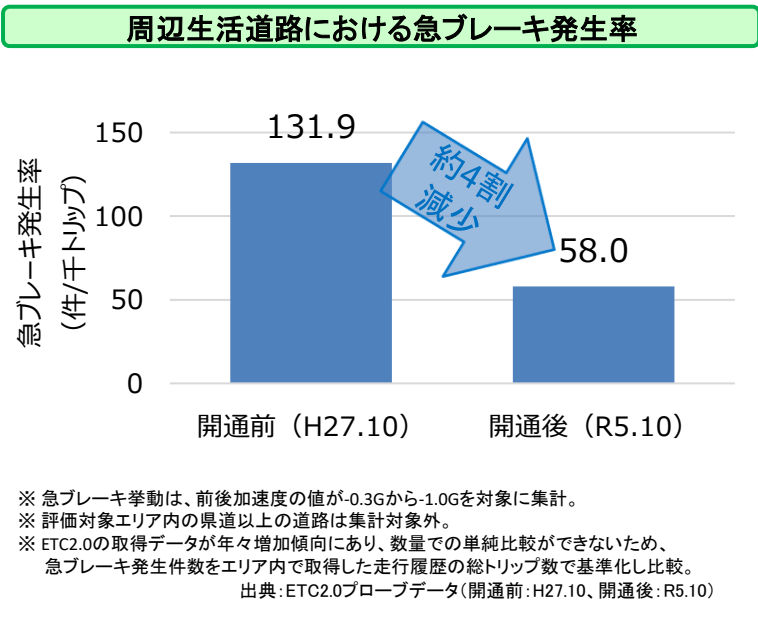
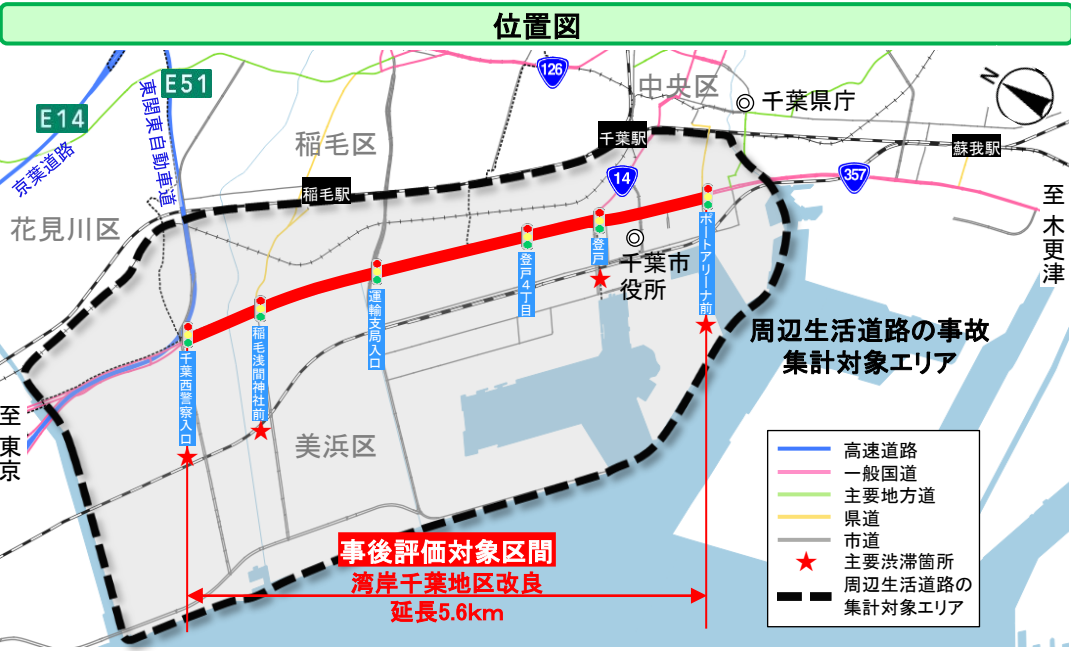
※ 急ブレーキ挙動は、前後加速度の値が-0.3Gから-1.0Gを対象に集計。
※ ETC2.0の取得データが年々増加傾向にあり、数量での単純比較ができないため、急ブレーキ発生件数をエリア内で取得した走行履歴の総レコード数で基準化し比較。
出典:ETC2.0プローブデータ(開通前: H27.10、開通後: R5.10)



3. 事業目的の達成状況

(1)ー3 交通安全の確保(周辺生活道路)

- ・湾岸千葉地区改良事業区間周辺の生活道路では、国道357号への交通転換が図られ死傷事故件数が約4割減少。
- ・同範囲内における急ブレーキ発生率も約4割減少。
- ・業務や観光などで道路を利用する方からは、事故や危険の減少を実感する声をいただいている。



道路利用者の声

渋滞が緩和され、トラックなど大型車両もさほど気にならなくなり、安全運転に繋がっていると感じる。
(千葉県在住、60代、男性)

きちんと整備された広い道路のため、狭い裏道を通る必要がなくなり、安心感ができた。
(千葉県在住、20代、女性)

3. 事業目的の達成状況

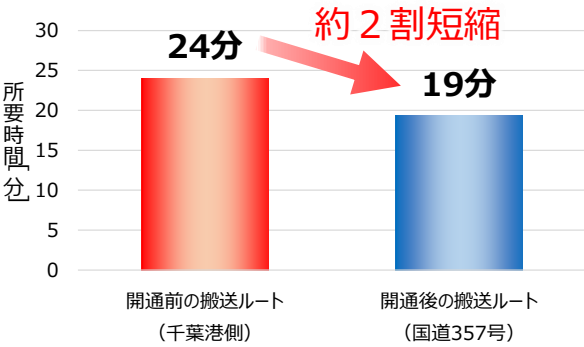
(1)ー4 救急医療活動のアクセス向上

- ・湾岸千葉地区改良の開通により、ポートアリーナ前交差点から千葉市立海浜病院への救急搬送ルートの変更により、所要時間が24分から19分となり約2割短縮。
- ・救急医療の現場からも、搬送時間の短縮や救急搬送患者の負担軽減を実感する声をいただいている。



※第三次救急医療機関である千葉県救急医療センターが隣接していたが、令和5年11月に移転している。

【所要時間の短縮】
(ポートアリーナ前交差点から千葉市立海浜病院)



出典:ETC2.0プローブ情報
整備前(H27年4月～11月平日)、整備後(R5年4月～11月平日)

① 国道357号千葉西警察入口交差点付近



② 国道357号地下立体部



【千葉市消防局の声】



色々な現場に向かう際に渋滞する国道357号は避けていましたが、地下立体区間を走行することで、色々な現場に一気に向かえます。
現場から病院への搬送時間が短縮しており、救急搬送患者の負担軽減にも繋がることから、地下立体開通には感謝しています。

H28.6 ヒアリング結果

3. 事業目的の達成状況

(2) 費用対効果の算定基礎となった要因の変化

	再評価時 (2010(H22)年度)	事後評価時 (2024(R6)年度)	変化の要因
事業費	約277億円	約318億円	・掘削残土の処理工法の変更等に伴う事業費の増加
計画交通量	38,500台/日※1	47,100～75,700台/日※2	・将来年次、将来需要、将来ネットワーク等の見直し
事業期間	2003(平成15)年度～ 2015(平成27)年度 (13箇年)	2003(平成15)年度～ 2019(令和元)年度 (17箇年)	・開通後の地下立体部側道及び一般部の歩道拡幅部における舗装等の残工事の実施等に伴う事業期間の延伸
道路構造	6車線(一般部) 4車線(地下立体部)	6車線(一般部) 4車線(地下立体部)	・変更なし

※1 平成17年度全国道路・街路交通情勢調査に基づくR12将来計画交通量
※2 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査に基づくR22将来計画交通量

〔再評価(H22)〕		参考)2024(令和6)年度時点における費用便益比算定	
・分析対象期間	: 供用後50年間	・分析対象期間	: 供用後50年間
・総便益	: 約373億円(約1,025億円※3)	・総便益	: 約639億円(約1,059億円※3)
・総費用	: 約269億円(約276億円※3)	・総費用	: 約541億円(約319億円※3)
・費用便益比	: 1.4	・費用便益比	: 1.2

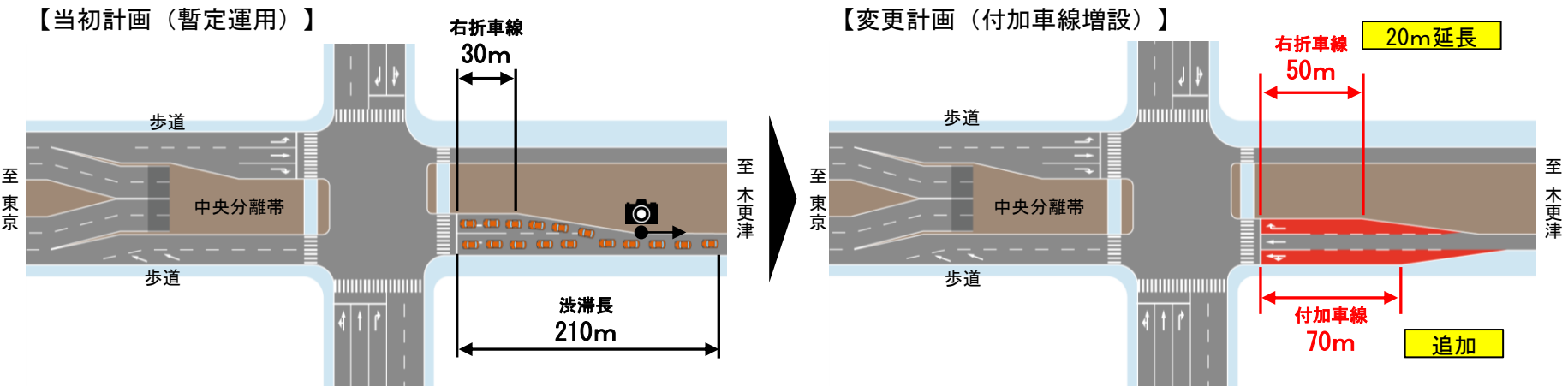
※3 基準年次における現在価値化前の値を示す

4. 今後の事業へ活かすレッスン

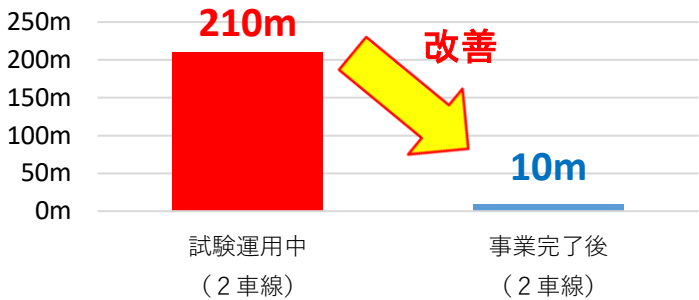
(1) 暫定運用により交通状況を把握した上で柔軟な計画の見直しを実施

- 地下立体部の側道を4車線から完成形の2車線に移行する際に、交通影響を把握するため暫定運用(H30.4)を実施。その結果、渋滞の発生を確認したため、計画の見直し(付加車線増設)を行い完成形に移行。
- 立体道路における側道整備時に、暫定運用を行うことで課題を把握し、柔軟な対応を行うことができる可能性がある。

暫定運用を踏まえた計画の見直し(登戸交差点)



登戸交差点(東京方面) 最大渋滞長



出典: 渋滞長調査結果(千葉国道事務所)
試験運用中(2車線): H30.4.24(火)
事業完了後(2車線): R6.11.16(水)

暫定運用時の渋滞発生状況 (登戸交差点)



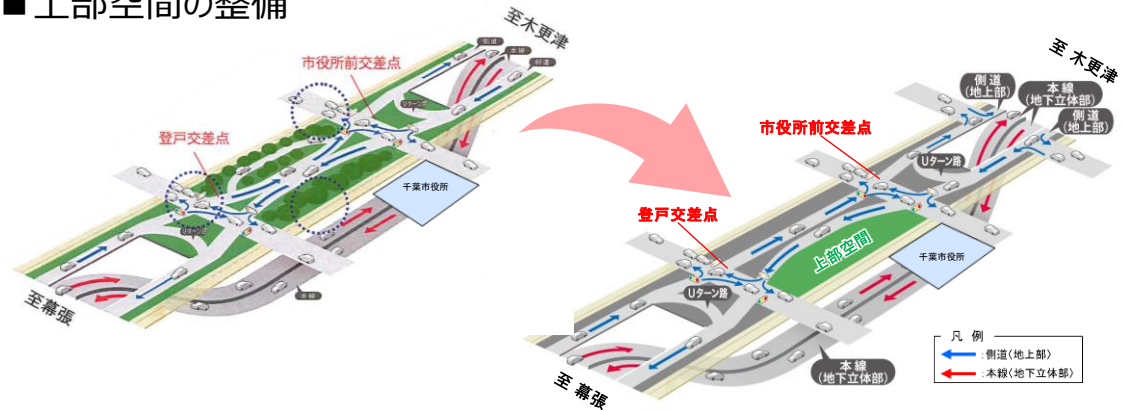
4. 今後の事業へ活かすレッスン

(2) 上部空間の活用による地域の活性化

- ・湾岸千葉地区改良事業のうち、千葉市役所前付近を地下立体部として整備したことにより地下立体部の上部空間を活用可能になった。
- ・まちづくり、にぎわい創出等による地域の活性化を図るため、令和4年10月に千葉市および千葉銀行と包括連携協定を締結し、これまでに6回の社会実験イベントを実施。
- ・直近では令和6年11月にイベントを実施しており、これまでの開催結果等を踏まえ、引き続き道路空間の有効活用に向けた検討を行う。



■ 上部空間の整備



■ 社会実験イベント実施状況（令和6年11月）

○キッチンカー・ノフクマルシェ

○地面にお絵かき



■ 社会実験イベント参加者の声



小さなお祭り気分が味わえて楽しかった。
(千葉県在住、60代、男性)



こんなすごい場所なのにあまり知られていないと思うので、
どんどんイベントや何かで広めてほしい。
(千葉県在住、50代、女性)

出典：利用者アンケート結果(R6.10(Web方式)、千葉国道事務所)

5. まとめ

■対応方針(案)

(1) 今後の事業評価の必要性、改善措置の必要性

- ・本事業の実施により、事業目的である交通渋滞緩和、交通安全の確保、国道357号周辺における交通円滑化等、様々な整備効果が発現しており、今後の事後評価および改善措置の必要性はないものと考えられる。

(2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・本事業の完了により、バスの定時性向上、救急搬送時間の短縮などが見られ、地域の生活環境の向上に寄与した。
- ・今後、隣接事業(湾岸千葉地区改良(蘇我地区)、検見川立体)の整備による更なる効果の発現について確認および評価の実施を検討。
- ・また、本事業の上部空間の利活用を「国道357号におけるにぎわい創出に向けた利活用に関する協議会」にて検討しており、社会実験イベントを開催しているところである。今後も道路空間の有効活用を見据え、継続的に地下立体の上部空間利活用に関する検討を実施する。